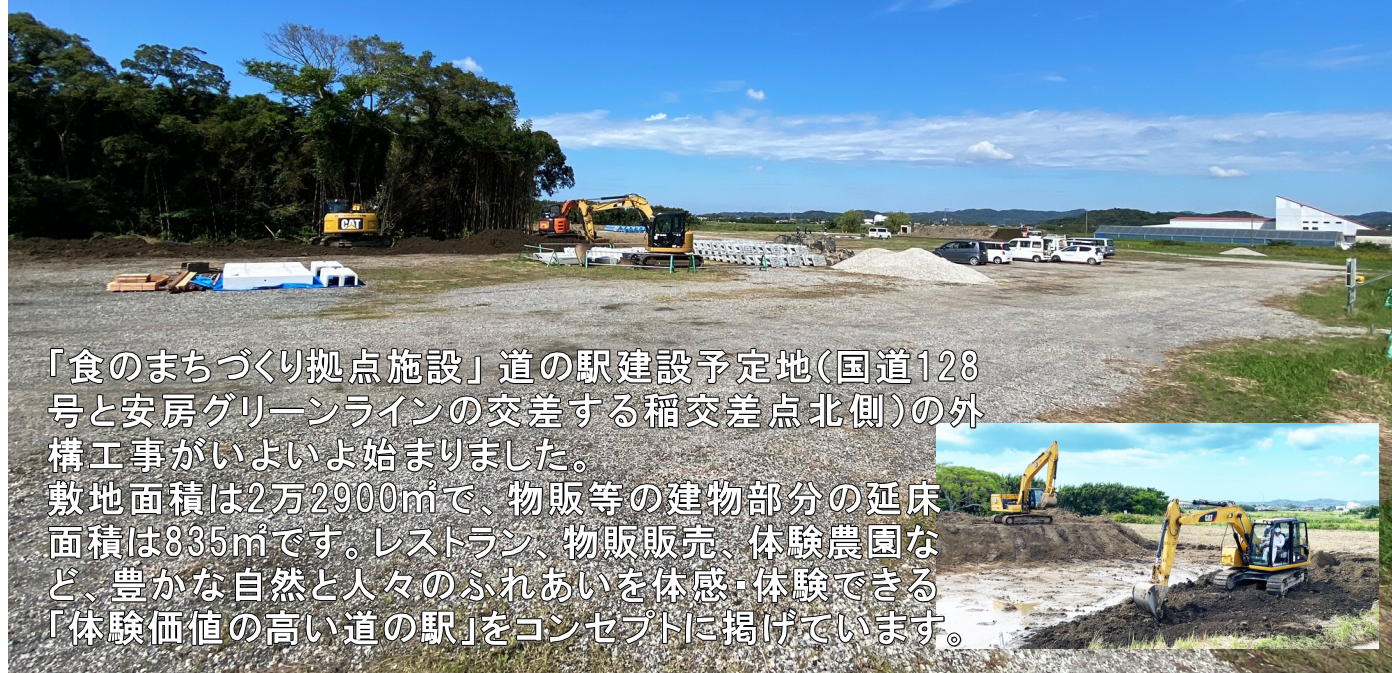


りゅうざき滋活動報告

しげる



「食のまちづくり拠点施設」道の駅建設予定地(国道128号と安房グリーンラインの交差する稲交差点北側)の外構工事がいよいよ始まりました。敷地面積は2万2900㎡で、物販等の建物部分の延床面積は835㎡です。レストラン、物販販売、体験農園など、豊かな自然と人々のふれあいを体感・体験できる「体験価値の高い道の駅」をコンセプトに掲げています。

ごあいさつ

館山市の行政は、台風15号の復旧とコロナによる痛手の中、この三年間で、新学校給食センターの稼働、ゴミ焼却施設の大規模改修、新館山中学校の校舎新築など、高額予算を充て進めてきました。とりわけ、私自身が10年来その必要性を訴え、建設の着工を求めてきた食のまちづくり拠点(道の駅)の本契約が交わされ、ようやく工事が進みだしたことは、市の活性化に向けた明るい兆しが見えてきたと言えます。議会においては、今期も余すところ半年。これまで、議員の行政視察は自粛してきましたが、今年度は行う予定です。議会報告会は今回も感染予防のために対面の会合はやめ、アンケートや意見要望などを書面等で受けるのみとなりました。議会と市民の双方のコミュニケーションを深めるために設置された広報広聴委員会も、その機能を発揮できません。有観客のイベントが行われている中で、多人数ではない議会報告会を行わないのは議会の怠慢と言われても仕方ありません。今回発行の活動報告では、コロナ禍によりお届けを自粛したバックナンバーも併せて配布させていただきます。

定例会行政一般通告質問

◆令和4年第3回定例会(9/6)

食のまちづくり拠点施設 今後の事業展開について

問：運営体制における生産者協議会、出店者協議会との連携を伺います。
答：施設へ農産物や加工品を出荷する生産者により生産者協議会を、飲食テナントなどの出店者により出店者協議会を設立する予定としています。当該施設の目指す理念やコンセプト、方向性を生産者や出店者と共有し、相互に意見交換ができる場を設け、施設の維持継続、魅力向上に向けた課題解決や新たな取組などに積極的に取り組んでいける体制づくりを行ってまいります。

解説：令和6年の2月オープンに向けた拠点事業の本契約が、第三回定例会で議会の承認を得たタイミングで、今後の拠点運営体制について質問をしました。他に、市内観光との連携、物販機能の充実、コンセプトである体験機能の課題などを質問し、市民や「道の駅」への来訪者に感動を与えられるような拠点運営について提案をしました。

また、8月22日の千葉日報の特集記事による千葉県内の29の道の駅、人気順位の読者アンケートの結果を取り上げました。1位は保田小学校、2位はとみうら(枇杷倶楽部)、3位は富楽

フォトアングル

「たてやま緑の仲間たち」の農業体験・食育ボランティア活動です。ヒマワリとコスモスの植栽活動は、館野小学校前で耕作放棄地の解消と景観形成を目的に、今では夏の名所として内外から多くの見学者が訪れます



①手入れが欠かせないひまわり畑の管理作業(6月)



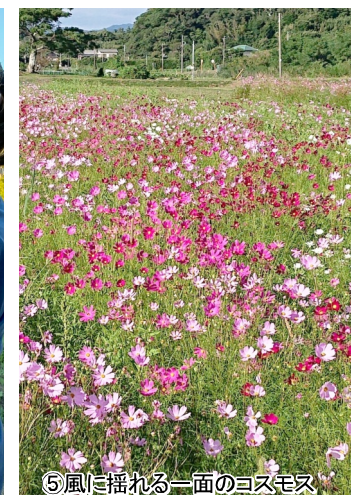
②夏の日差しに咲き誇る満開のひまわり(7月)



③メンバーによる植え付け苗の準備



④見学者のための案内看板を設置(7月)



⑤風に揺れる一面のコスモス



校舎の外観イメージ図(令和2年度作成)館山市HPより

◇通学の児童生徒が県道にはみ出している樹木を避け車道に膨らむのを見た市民からの要望で、樹木の伐採をしました(5月那古)



◇8月15日終戦記念日の街頭演説。地方創生臨時交付金の活用と市内の河川の氾濫対策、給食費負担軽減や農業支援に関する取り組みを報告



館山中学校新校舎建設始まる

令和7年4月供用開始に向けて新校舎・新武道場の建設工事請負業者が決定しました。令和3年4月に旧第二中学校と旧第三中学校が統合し、現在は旧第二中学校の校舎を利用しています。現在、生徒数は714名、教職員は約60名で、新校舎のコンセプトは「どこにいても学校全体の活動が感じられる空間の中で、学年の垣根を超えたふれあいが生まれる校舎」としています。また、新校舎建築に付随してプールの解体工事や北条中央排水路改修工事も行われています。契約金額は33億2838万円。工事業者は、前田・白幡・石井特定建設工事共同事業体です。安全かつ無事故の工事により工期内に終わるよう見守っていきたいと思います。そして、教育環境の整った新校舎で生徒が大きく成長することを願って止みません。